

地域特性を踏まえた 新しい公共サービスの確立

千代田区の清掃事業
その一つ目が、「時間
帯収集」。燃やすごみに
ついては、8時30分・9
時30分・12時30分までの
三段階の排出時間を定め
ている。燃やさないごみ
は、10時まで。また、
燃やさないごみ同様の蛍
光管・ガス管などの危険
物は、12時30分までに排
出をお願いし、軽小で別
回収している。大規模集
合住宅の建築に伴う時間
帯変更や道路工事による
通行止めでの早取り(再
度確認が必要)などのデ
メリットはあるが、ごみ
出し時間を表示すること
で区民の利便性を図り、

千代田区は、昼間人口
約117万人・夜間人口
約67,000人となっ
ており、夜間人口に対す
る昼間人口比率は17
53%と全国の自治体で
突出している区となっ
ている。こうした状況から
我々に求められているこ
との第一は職員が自分の
力で考え、行動すること。
すなわち「主体性」であ
り、他区とは違う区民・
公共サービスを提供しな
ければならない。

いま 清掃事業は・・・ 千代田区



▲環境祭り

併せてごみの滞留時間を
短くすることによりカラ
ス等によるごみの散乱被
害防止や歩行者への配
慮、まちの環境美化・環
境衛生の向上そして、収
集時間が守られることで
大幅な減員・減車の合理
化攻撃はされていない。
二つ目が、「あおぞら
相談・回収」。この取り
組みは京都市における「移
動式拠点回収」からヒン
トをもらい、試行錯誤し
ながら千代田区版移動式
拠点回収として本格実施
となった。行政側から地
域に向き、ごみの出し
方の相談や処理の仕方に
困っているものなどを回
しながら、区民からの感
謝の手紙などを見るから
に公務・公共部門の役割
が重要だと期待が高まっ
ている。環境の新しい視
点も踏まえ、「地域貢献」
を柱に創造力・創造性を
発揮しながらこれまでと
は違った『新しい公共』
が必要となってくる。
(千代田区担当中執
張替 一茂)



新自由主義で非効率と
された「公共サービス」
は破壊され、社会福祉政
策が崩壊している中、清
掃事業を取り巻く状況は
大きな分岐点を迎えてい
る。この中でキーワー
ドは、どうやって直営を
堅持し、職場を守ってい
くかになっており、コロ
ナ禍による区民からの感
謝の手紙などを見るから
に公務・公共部門の役割
が重要だと期待が高まっ
ている。環境の新しい視
点も踏まえ、「地域貢献」
を柱に創造力・創造性を
発揮しながらこれまでと
は違った『新しい公共』
が必要となってくる。
(千代田区担当中執
張替 一茂)

岸まきこ参議院議員の 推薦決定！

第27回参議院議員選挙における比例代表候補者として

2025年に予定される
第27回参議院議員選挙にむ
け、自治労は8月に開催し
た第97回定期大会におい
て、現参議院議員の岸まき
こ議員を組織内候補として
擁立することを
決定しました。
それを受け、自
治労東京都本部
も9月に開催し
た中央委員会に
おいて、岸まき
こ議員の推薦を
確認しました。
この間、岸ま
きこ議員には、自治労組
員の職場実態や課題・問題
を国政の中で強く発言して
もらってきた経過がありま
す。わが組合においてもこ
れまでのことを踏まえ、第
7回中央委員会で自治労組
織内協力候補予定者「岸ま
きこ」さんの推薦を全会一
致で確認しました。
我われの声をしっかりと
国政に反映させるために
は、「数」の力が必要です。
圧倒的な得票数で当選させ
るため、今から周知の取り
組みを進めていきましょ
う。
(萩原 崇氏)



▲自治労大会で決意を述べる岸議員

東京清掃労働組合青年部 第68回定期大会を開催

青年労働者の力を結集し、闘いを組織しよう！

私たち東京清掃青年部は
10月15日(日)、第68回定
期大会を開催しました。代
議員32名、本部委員15名、
傍聴7名、総勢54名で一年
間の総括と今後の運動につ
いて議論・確認をしまし
た。
来賓として多田中央執行
委員長、自治労都本部青年
部の渡辺青年部長、横浜清
掃ユース部の増田ユース部
長、部落解放同盟
東京都連の川口青
年部長にお越しい
ただき、連帯のご
あいさつをいただ
きました。
経過報告が確認
された後、須永副
部長の運動方針
(案)の提案に対
し、各地連の活動
報告を交えながら
いきますの
で、各支部から積極的
に活動に送り出していただ
くようお願いしま
す。
(山口 明日波)



▲主催者あいさつをする山口青年部長

経過報告が確認
された後、須永副
部長の運動方針
(案)の提案に対
し、各地連の活動
報告を交えながら
いきますの
で、各支部から積極的
に活動に送り出していただ
くようお願いしま
す。
(山口 明日波)



▲退任した須永副部長と
新任の阿部執行委員



▲真剣に耳を傾ける参加者

《ひとこと》

2021年にデジ
タル化の波が清掃
事務所にも押し寄せ
てきている。行政への
申請書や窓口業務など
が来庁せずとも、イン
ターネット上で申請・
受付が出来るような
オンライン化が進んで
いる。練馬区の清掃
事務所でも所内にD
Xチームを作り、事務
所内環境のオンライン
化について少しずつ
動き始めている。
他都市の収集に関
しても、藤枝市や名
古屋市などでは、民
間企業の最先端技術
を用いて収集ルートの
自動設定・表示がで
きるシステムの導入
を試験的に行なっ
ている。もちろんメ
リットは多いが、現
場側とすると不安
要素も沢山ある。そ
で、大切になってく
るのは、事前のデジ
タル化についての話
合いとデジタルに触
れることだ。私達が
経験した通り、デジ
タル化はいきなり
迫ってくる。その
中で、何も知らな
いと拒否反応が出て
しまう。直営職員
が運用することで直
営堅持が成り立つ。
デジタルの得意な職
員はもちろん、不得
意な職員も含めて
共存を模索してい
く必要がある。
(練馬区担当中執
黒田 渉)